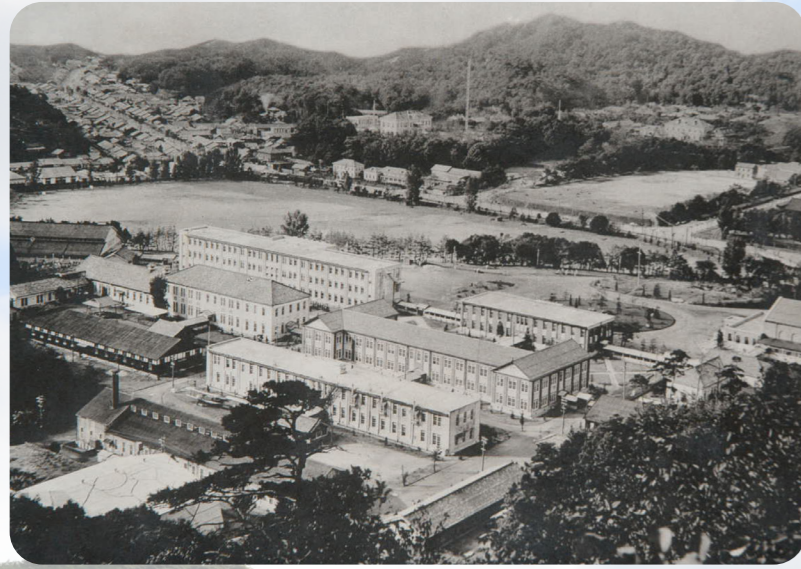


舞鶴地方隊の歴史



海軍機関学校(現総監部地区)全景

そして1901年(明治34年)10月1日に舞鶴鎮守府が開庁され、初代司令長官に東郷平八郎中将が着任しました。

その後ワシントン条約により、1923年(大正12年)から1939年(昭和14年)の間、鎮守府から要港部へと規模を縮小した時期もありますが、第2次世界大戦が終結するまでの44年間、海軍の基地として国防上重要な機能を果たしてきました。

また、1923年(大正12年)に発生した関東大震災により、横須賀の海軍機関学校が全焼したため、同学校が当地(現総監部地区)に移設され、1945年(昭和20年)の終戦までの間、艦艇のエンジン関係の職務に携わる海軍士官を養成してきました。



1952年(昭和27年)旧舞鶴水交社跡に設置された旧総監部

日本海軍は1889年(明治22年)、ロシアや朝鮮半島に対する防衛力強化を図るため、日本海側に、海軍区の拠点として、鎮守府の設置を舞鶴に決定しました。これは舞鶴湾の湾口が狭く、水深が深いという地形に恵まれているため防御に適し、かつ水資源にも恵まれ、軍港としては格好の地形であったためです。



初代舞鶴鎮守府司令長官 東郷平八郎

1952年(昭和27年)4月26日、海上自衛隊の前身である海上警備隊が創設されました。同年8月1日保安庁警備隊の発足と同時に舞鶴地方隊(舞鶴地方総監部・舞鶴航路啓開隊・新潟航路啓開隊)が新編され、海上自衛隊の歴史を歩み始めました。

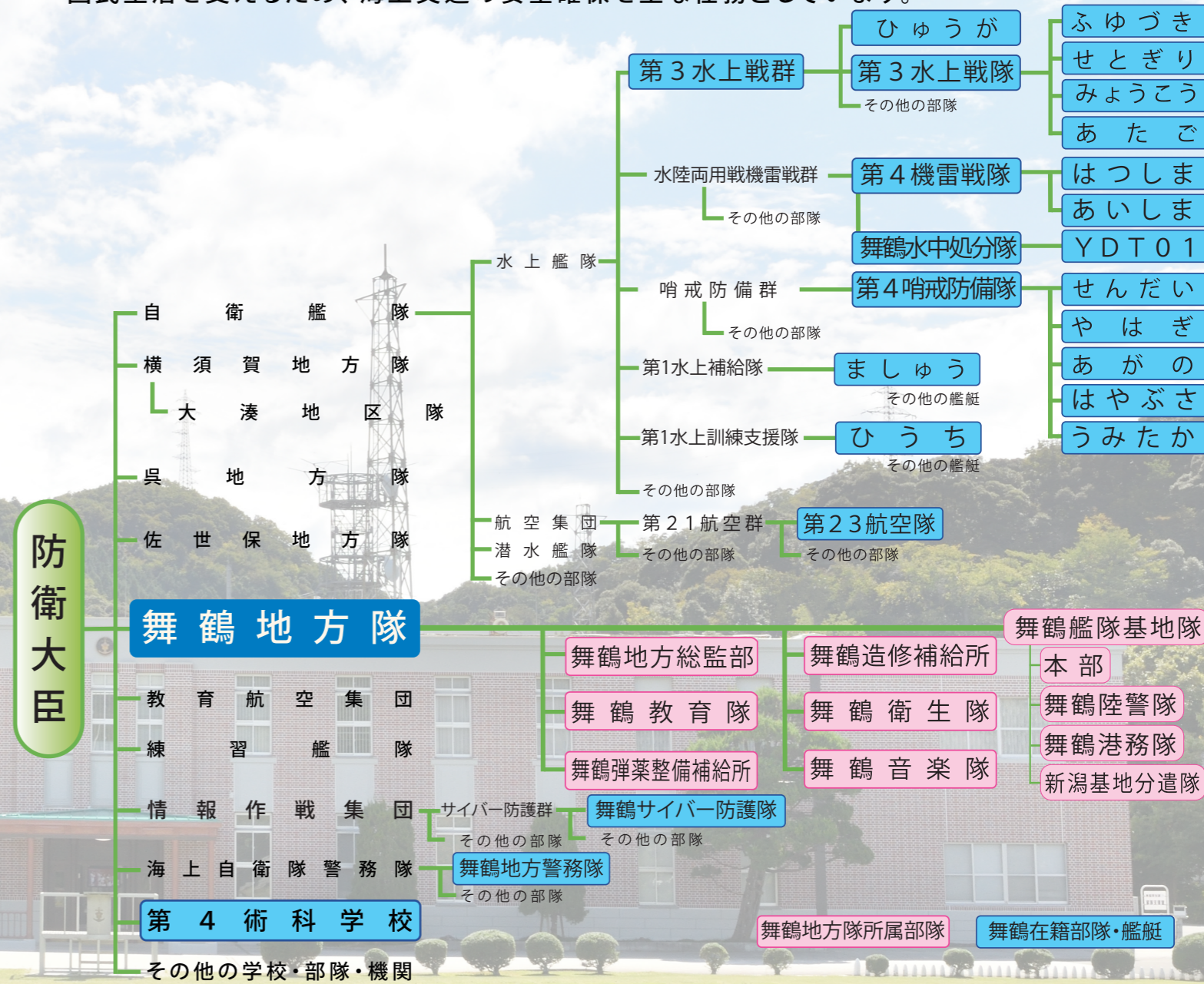
(1954年(昭和59年)から防衛庁、2007年(平成19年)から防衛省へ移行)

海上自衛隊について



日本は、四方を海に囲まれた島国です。これは我が国に対する脅威が、常に海を經由してくることを意味しています。また、資源に乏しい我が国は、国民の生活基盤となる物資のほとんどを海外に依存しており、その9割以上が世界中に広がる海上輸送により運ばれています。

海上自衛隊は、海上からの侵略に対し、我が国を防衛するとともに、日本経済の繁栄と国民生活を支えるため、海上交通の安全確保を主な任務としています。



舞鶴地方隊について



舞鶴地方隊は、北は秋田県から西は島根県に至る日本海側一帯を警備担当区域とし、上記の各部隊によって編成され、警備に当たっています。また、艦艇や航空部隊が円滑に行動できるように、補給・修理・人事などの後方支援業務も、地方隊の大きな任務になっています。

このほか、災害・事故が発生した場合の救助・復旧・輸送等にも従事しています。

舞鶴在籍の艦艇・航空機



第3水上戦群



DDH181 護衛艦「ひゅうが」
基準排水量 13,950t 全長 197m 速力 30kt



DD118 護衛艦「ふゆづき」
基準排水量 5,100t 全長 151m 速力 30kt



DD156 護衛艦「せとぎり」
基準排水量 3,550t 全長 137m 速力 30kt

哨戒防備群



FFM5 護衛艦「やはぎ」
基準排水量 3,900t 全長 133m 速力 30kt



DDG175 護衛艦「みょうこう」
基準排水量 7,250t 全長 161m 速力 30kt



DDG177 護衛艦「あたご」
基準排水量 7,750t 全長 165m 速力 30kt



PG824 ミサイル艇「はやぶさ」
基準排水量 200t 全長 50m 速力 44kt



FFM6 護衛艦「あがの」
基準排水量 3,900t 全長 133m 速力 30kt

第1水上補給隊



AOE425 補給艦「ましゅう」
基準排水量 13,500t 全長 221m 速力 24kt

第1水上訓練支援隊



AMS4301 多用途支援艦「ひうち」
基準排水量 980t 全長 65m 速力 15kt



PG828 ミサイル艇「うみたか」
基準排水量 200t 全長 50m 速力 44kt



DE232 護衛艦「せんだい」
基準排水量 2,000t 全長 109m 速力 27kt

水陸両用戦機雷戦群



MSC606 掃海艇「はつしま」
基準排水量 570t 全長 60m 速力 14kt



MSC688 掃海艇「あいしま」
基準排水量 510t 全長 54m 速力 14kt



YDT01 水中処分母船1号
基準排水量 300t 全長 46m 速力 15kt

航空集団



哨戒ヘリコプター SH-60K
全長 19.8m 速力 139kt 全備重量約 10t

舞鶴在籍の陸上部隊



舞鶴地方総監部



舞鶴地方隊に所属する各部隊の防衛・管理・
経理など組織運用に関わる司令部

舞鶴教育隊



新入隊員の教育・訓練を担当する部隊

舞鶴衛生隊



健康診断・身体検査・医療・保健衛生担う部隊

舞鶴音楽隊



京都府近隣の2府9県を担当する
日本海側唯一の音楽隊

舞鶴造修補給所



舞鶴地方隊における補給・修理に関する
艦艇等・支援を担う部隊

舞鶴弾薬整備補給所



海上自衛隊で使用する弾薬類の
整備、管理を担う部隊

第4術科学校



海上自衛隊に4校ある術科学校の1校であり、
経理・補給・給養及び業務管理等を教育する学校

第23航空隊



海上自衛隊唯一の日本海側に所在する航空基地
航空機の運用・整備を担う部隊

舞鶴艦隊基地隊



舞鶴地区における後方支援業務(福利厚生や給食支援等)や、
施設警備及び艦船の出入港支援を担う部隊

舞鶴サイバー防護隊



海上自衛隊の通信及びネットワークの保安全管理を
担当し、部隊運用及び作戦を支援する部隊

舞鶴地方警務隊本部



司法警察業務及び保安業務を担当し、
部隊の秩序維持を担う部隊

海上自衛官になるには？

海上自衛官の仕事ってどんな仕事？

海を活動領域とする海上自衛隊の仕事には、多くの職域・職種があり、互いに協力し支え合いそれぞれの任務についています。

主な職域・職種には次のようなものがあります。

艦艇	<p>攻撃（武器の操作・船体の管理 など） <運用員・射撃員・魚雷員・水測員・射管員など></p> <p>船務（艦の運航・戦術補佐 など） <航海員・電測員・通信員・電子整備員など></p> <p>機関（エンジン等の操作・ダメージコントロール など） <ガスタービン員・電機員・応急工作員・ディーゼル員など></p> <p>補給員・給養員・経理員・衛生員・航空機整備員など</p>
航空機	<p>パイロット（固定翼機・ヘリコプターの操縦士） <固定翼機（P-1など）、ヘリコプター（SH-60Kなど）></p> <p>戦術航空士（P-1などの機上で戦術を指揮）</p> <p>航空士（武器整備・電子整備・フライトエンジニア など）</p>
基地	<p>通信（通信機器の運用整備・システム管理 など）</p> <p>経理（契約・給与等の会計業務）</p> <p>補給（物品の調達及び管理業務）</p> <p>給養（隊員に対する給食調理）</p> <p>衛生（医療補助・医療事務・看護師 など）</p> <p>装備（艦艇・航空機のメンテナンス、研究開発など）</p> <p>地上救難（航空基地における消防業務・基地警備など）</p> <p>航空機整備（航空機の整備・修理及び飛行作業支援 など）</p> <p>その他の職種 （医官・潜水・航空管制・気象・施設・情報・警務・音楽 など）</p>

各職域・職種は、男女に関係なく、本人の希望・適性・要員の養成計画に基づき指定され、艦艇・航空機・基地など様々な配置に配属されます。

キャリアアップのモデルは5ページの表をご覧ください。

※ 幹部自衛官は、上記のそれぞれの職域で指揮を執ります。

※ 一部の職種においては、幹部のみや准曹士のみ場合があります。

※ ほとんどの職種で、艦艇及び航空部隊を含む陸上に勤務場所があり、女性も活躍しております。

海上自衛隊の勤務場所は艦艇・航空機・基地と多岐にわたります。



任務に必要な
 国家資格等は
 公費で取得可能です。

資格の例：
 小型船舶・准看護師・
 フォークリフト・無線技士等

海上自衛官になるには？

海上自衛官の教育課程について

複雑化する国際情勢や、高度化する防衛装備品等に対応するために、海上自衛隊ではプロフェッショナルを育成するために様々な教育プログラムがあります。自衛隊内での部内教育をはじめ、国内外における部外教育を受ける機会もあります。下記にその一例を示します。

	准曹士 (高校卒業程度)	幹部 (大学卒業程度)
部内	<ul style="list-style-type: none"> 各教育隊 (自衛官になるための課程) 各種海士, 海曹課程 教官になるための課程 専門装備の取扱方法や専門知識を習得するための課程 	<ul style="list-style-type: none"> 幹部候補生学校, 遠洋練習航海 任務, 専門課程 中級課程 指揮幕僚課程 防衛研究所一般課程, 高級課程
部外 (国内)	<ul style="list-style-type: none"> 企業委託研修 (装備品等関連) 民間語学学校による各種語学教育 各種国家資格等取得に関する教育 (看護師, 栄養士, 救急救命士, IT, 無線など) 	<ul style="list-style-type: none"> 企業委託研修 (装備品等関連) 国内大学院研修 (修士, MBA) (国際政治, 工学, 会計など) 防衛大学校研究科研修 (修士, 博士) など
部外 (国外)	<ul style="list-style-type: none"> 米海軍委託研修 (装備品等関連) 	<ul style="list-style-type: none"> 米海軍委託研修 (装備品等関連) 各国海軍大学院等研修 (米, 英など)

各種教育課程等は、要員養成計画に基づいて指定されます。受講資格は本人の希望のほか、選抜・選考によるものなど教育課程により異なります。

海上自衛官の待遇について

海上自衛隊に採用されると、特別職国家公務員に任命されます。採用時の給与は学歴・職歴等により異なりますが、次のようになっています。

- 一般曹候補生 (高卒程度) 239,500 円 (2等海士)
- 幹部候補曹 (大卒程度試験合格者) 252,600 円 (海士長)
- 一般幹部候補生 (大卒程度試験合格者) 295,100 円 (海曹長)

海上自衛隊では、勤務や職種・職域に応じて乗組手当・航海手当・航空手当・地域手当など各種手当があり、艦艇や航空機の勤務になると手当は、次のようになっています。

- 乗組手当 現号俸の43% (水上艦艇), 現号俸の55.5% (潜水艦)
- 航空手当 該当する階級の初号俸の60%

その他の福利厚生として、休暇については年次休暇 (月2日) のほか特別休暇等もあり、衣食住の提供や、自衛隊病院等の部内診療における医療費は無料となっています。

海上自衛官のキャリアアップモデル

隊員のキャリアアップのモデルケースです。在職期間中は、自衛隊内の各種教育機関に入校したり転勤や異動しながら、キャリアアップしていきます。
※一例ですので、配置や能力により異なります。



海上自衛隊の勤務地は、日本全国に所在しており、部隊の計画、本人の職種や希望により配置されます。

右の日本地図は、主な艦艇部隊基地と航空基地を示しています。この他にも多くの基地があり、我が国周辺の平和と独立を守る任務についています。

